

草の根・人間の安全保障無償資金協力

「ゾンバ県ウモジ地域中等学校拡大計画」

引渡式

2015年11月17日



中央写真:建設された図書室の前でテープカットを行う西岡周一郎大使(左)とアルファンディカ南東部教育管区長(右)、

左上写真:図書室内部、**右上写真:**管理諸室棟の前に掲げられた建設を記念した看板の除幕を行う西岡大使(左)とアルファンディカ南東部教育管区長(右)、

右下、左下写真:理科実験室棟見学模様

2015年11月17日、西岡周一郎大使は、平成26年度草の根・人間の安全保障無償資金協力「ゾンバ県ウモジ地域中等学校拡大計画」で建設された学校施設の引渡しを行いました。

ウモジ地域中等学校は、同地域の中等教育へのアクセス機会を増やすため、国際 NGO アクエイド・ライフライン・マラウイの支援によって設立されました。当学校はゾンバ県内の農村地域にあるムワムボ地区に2棟の教室棟とトイレ個室の学校設備を備えて、2012年に開校しました。一方学校では、現在まで図書館、理科実験室、管理諸室などの施設が未整備でした。

学校施設を充実させるために、日本政府は草の根・人間の安全保障無償資金協力を通じて、アクエイド・ライフライン・マラウイに対し110,184米ドルを贈与しました。同団体は贈与資金を利用して、図書室棟、理科実験室棟、管理諸室棟を建設し、学校用家具及び理科実験用具の調達を行

いました。この事業を通して、学校が質の高い適切な授業を生徒に提供できるようになることが期待されます。

式典で西岡大使は、本事業の実施は、当国教育科学技術省が導入した中等教育の新しいカリキュラムに同調するものであるとの考えを示しました。新しいカリキュラムでは全ての中等教育学校で理科授業が必修となり、実践的な理科授業を行うために理科実験室が必要となります。一方、西岡大使は、中等理数科現職教員再訓練プロジェクト及び青年海外協力隊事業による理数科教師ボランティア派遣を例に挙げて、日本政府がマラウイへの開発支援において理科教育の向上を優先課題として取り組んでいることを強調しました。